

【正誤表】臨床心理士指定大学院対策鉄則 10&キーワード 100 心理学編

*第2刷に対する正誤表です。刷数は本書の奥付をご覧ください。

P.59 論述演習中

(誤) 時間的・空間的に規定された

(正) 時間的・空間的に**特定可能な**

P.140 ②サーストンの多因子説 図中

(誤) すべてに共通する**特殊因子**

(正) すべてに共通する**一般因子**

P.191 右側の四角内

(誤) A. 年齢と**慎重**に対する…

(正) A. 年齢と**身長**に対する…

P.212 の上から7行目, 4択問題の1行目と

P.213 の論述演習の1, 2行目, 4択問題の1, 5行目

(誤) 自閉性スペクトラム障害

(正) 自閉**症**スペクトラム障害

P.216 知識の整理 02

次頁に記載の内容に全面差替え

P.223 ⑦嫌悪療法

(誤) アルコールを**接種**

(正) アルコールを**摂取**

P.225 ③モデリング療法

(誤) 他者を**観察**を通じて

(正) 他者**の**観察を通じて

P.216 全面差替え

知識の整理 02 主な精神症状の名称変更まとめ

DSM-5は2014年に日本語版が発表されたばかりであり、現在移行期であるため、大学院入試において、以前の名称と新たな名称の両方が出題される可能性がある。以下に主な精神症状の「これまで主に用いられてきた名称」と「DSM-5における名称」を整理した。どちらの名称で出題されても、柔軟に対応できるようにしておきたい。また、自分で論述する際に特定の症状名を使いたい場合は、「DSM-IVにおける〇〇(症状名)」と述べると安全。さらに「DSM-5においては〇〇という名称が用いられることになった」というように、DSM-IVまでとDSM-5からの変化を、むしろ論述のネタとして活用してしまうと、さらによいだろう。

これまで主に用いられてきた名称	DSM-5における名称
発達障害	神経発達症/神経発達障害
知的障害(精神遅滞)	知的能力障害(知的発達症/知的発達障害)
広汎性発達障害	自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害
注意欠陥・多動性障害	注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害
学習障害	限局性学習症/限局性学習障害
統合失調症 (緊張型・解体型・妄想型)	統合失調症スペクトラム障害
うつ病性障害	抑うつ障害
大うつ病エピソード	抑うつエピソード
大うつ病性障害	うつ病(DSM-5)/大うつ病性障害
身体表現性障害	身体症状症および関連症群
心気症性障害	病気不安症
転換性障害	変換症/転換性障害(機能性神経症状症)
神経性無食欲症	神経性やせ症/神経性無食欲症
神経性大食症	神経性過食症/神経性大食症
性同一性障害	性別違和
妄想性パーソナリティ障害	猜疑性パーソナリティ障害/妄想性パーソナリティ障害

(参考文献 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き 医学書院)

※DSM-5における、スラッシュで併記された名称の扱い

- ①児童青年期について、「障害」ではなく「症」と表記することが提案された病名は、スラッシュの左側に「症」の名称が、右側に「障害」の名称が提示されている。
- ②DSM-IVから引き継がれた疾病概念で、旧病名がある程度普及して用いられている場合は、スラッシュの右側に旧病名が提示されている。